

⑯ 日本国特許庁 (JP)

⑰ 実用新案出願公開

⑱ 公開実用新案公報 (U)

昭56-36935

① Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

② 公開 昭和56年(1981)4月8日

F 23 G 5/00

1 0 5

7456-3K

// B 01 J 8/18

7202-4G

F 23 C 11/02

2124-3K

審査請求 未請求

F 27 B 15/10

7920-4K

(全 2 頁)

① 流動層焼却炉の流動用空気ノズル

② 考案者 坪井晴人

川崎市中原区井田仲ノ町139番地

③ 実 願 昭54-119017

④ 出 願 昭54(1979)8月31日

⑤ 出 願 人 日本鋼管株式会社

⑥ 考 案 者 宇山清

東京都千代田区丸の内1丁目1番2号

川崎市高津区千年新町35番地5

⑦ 考 案 者 猪川修郎

⑧ 代 理 人 弁理士 堤敬太郎 外2名

横浜市保土ヶ谷区常盤台51番地

⑨ 実用新案登録請求の範囲

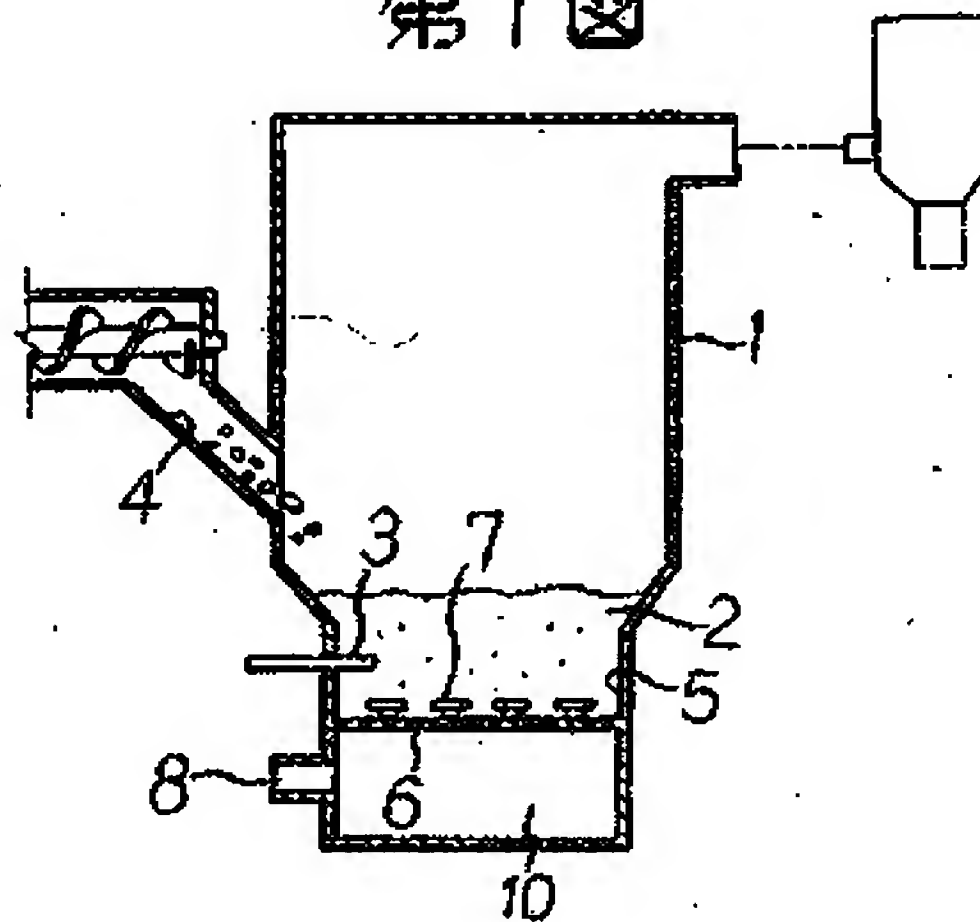
流動層焼却炉内の流動媒体収納部底板となる分散板上に突設し、流動媒体流動用空気を噴出自在とした空気ノズルにおいて、空気導管と、前記空気導管の上端部よりやや下方の位置に、前記空気導管の上端部を突出させて設けたフランジと、前記フランジ上にスリットを形成せしめて設けた下面外周縁から垂下するフランジ部を有する天蓋とからなり、前記スリットの高さは、前記空気導管のフランジ上面からの突出高さより小となし、また前記天蓋と前記フランジとのラップ部は、前記スリット高さの3倍以上としたことを特徴とする流動層焼却炉の流動用空気ノズル。

図面の簡単な説明

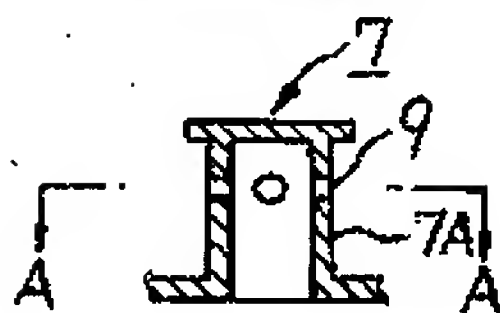
第1図は流動層焼却炉の一例を示す縦断面図、第2図は従来の空気ノズルを示す縦断面図、第3図は第2図A-A線視断面図、第4図は同じく従来の空気ノズルの一例を示す縦断面図、第5図は改良型の従来の空気ノズルの一例を示す縦断面図、第6図はこの考案の空気ノズルの実施例を示す縦断面図、第7図は同じく平面図である。図面において、

1…壁型炉体、2…流動媒体、6…分散板、7、11、13…従来の空気ノズル、18…この考案の空気ノズル、19…空気導管、20…フランジ、21…天蓋、22…脚部、23…スリット。

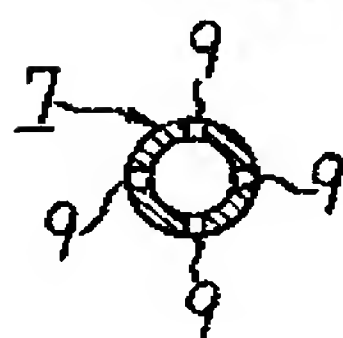
第1図



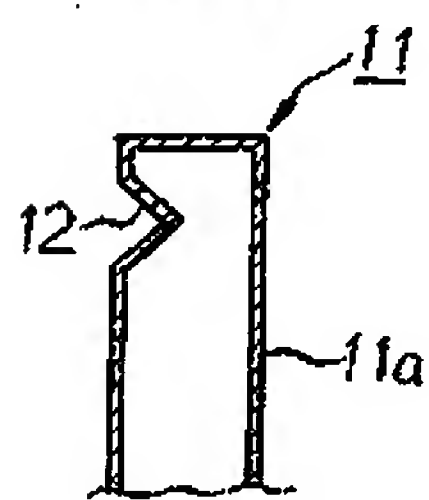
第2図



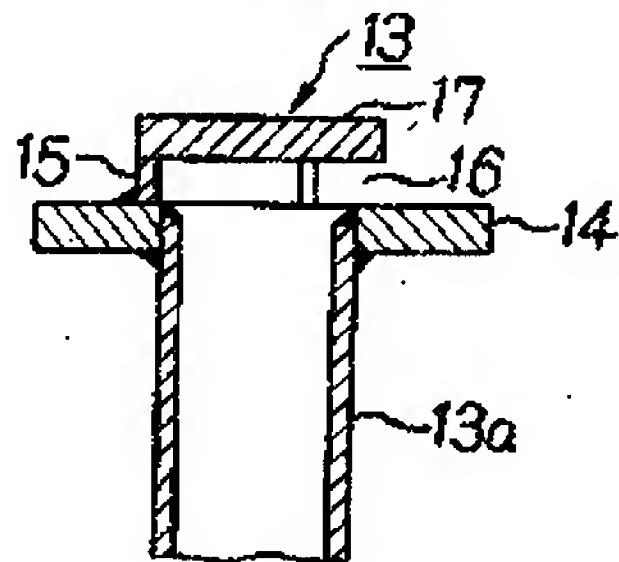
第3図



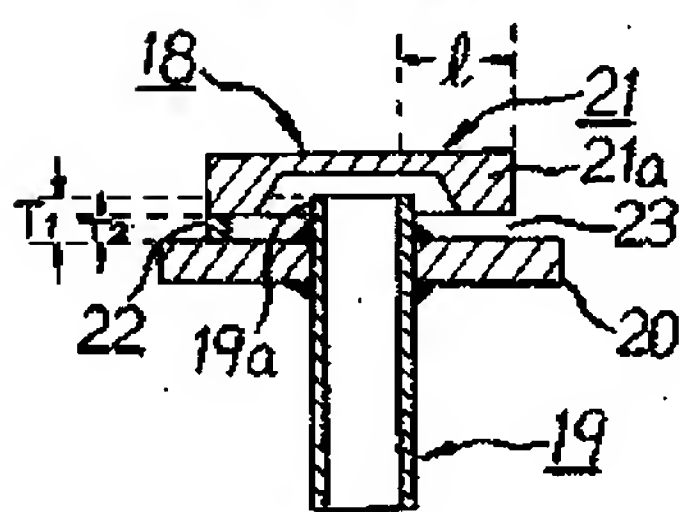
第4図



第5図



第6図



第7図

